

## AGU Fall Meeting 2018 参加報告

氏名：河合敏輝

所属：SSt 研究室（修士 1 年）

滞在期間：平成 30 年 12 月 9 日～12 月 17 日

滞在先：Washington, D.C.

滞在国内：U.S.

この度、私はアメリカの Washington, D.C. にて開催された、AGU (American Geophysical Union) Fall Meeting 2018 に参加しました。惑星科学、磁気圏物理、太陽物理などを専門とする世界中の研究者が集う非常に大規模な年会であり、会場の大きさや参加者の数は目を見張るほどでした。

今回、私は、” **The method for the detection and energy derivation of nano-flares based on deep learning** ”というタイトルで、ポスター発表を行いました。太陽物理学における未解決問題に深層学習を応用し、その解決に貢献するという研究です。

英語での口頭発表は学会や研究室内のセミナーで何度か経験がありましたが、ポスター発表は初めての経験となりました。口頭発表と異なり、一人一人の研究者や学生と深くコミュニケーションできることが強みであると感じる一方、自分の英語力の不足によって、その強みを最大限に活用できていない部分があることも否めないと感じました。

そのような状況下でも、様々な専門を持った人たちと議論し、それぞれの立場から意見をいただくことは、新たな発見につながりました。同様に、自分の研究の今後の方針や、何をしなければならないのかということを整理することができました。

さらに、今学会では” Machine Learning in Space Weather ”というセッションがあり、この分野における機械学習・深層学習を活用した多くの研究について知ることができました。特に、17 世紀以降に描かれたスケッチから極端紫外線画像を復元するという研究は非常に興味深いと思いました。さらには、高校生ながらもポスター発表や議論をしている参加者もいて、刺激的でした。

私は比較的、非社会的で自分から積極的に話しかけに行く気質ではないのですが、自分の専門と異なる発表であっても積極的に質問や議論を仕掛ける先輩の姿からも、

学べることがありました。与えられた機会を最大限生かすということを常に意識したいと思いました。

また、会場付近には国立の博物館・美術館が複数あり、学会の外でも知的な刺激を得ることができました。最後に、今後もこのような国際学会に積極的に参加したいと強く感じました。そのためにも、研究結果を出し、また、学会からより多くのことを得ることができるよう、語学などのコミュニケーションスキルも同時に磨いて行かなければならないと思いました。

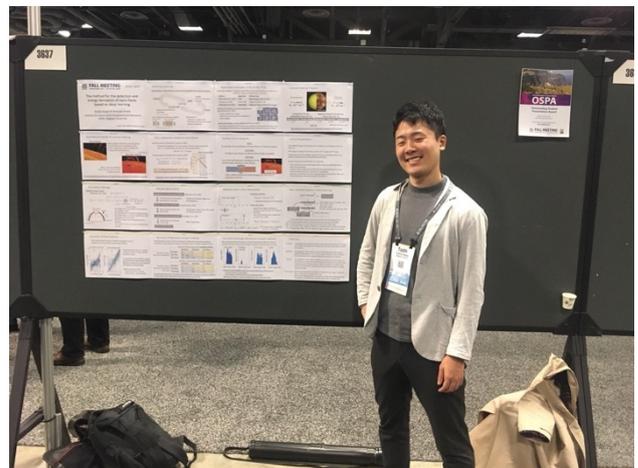


図 1 参加風景

### <指導教員>

今田 晋亮